

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 122 号 2017.4.15
□ ■ □ -----

4 月も半ばになり、新生活を始められた方も少しずつ落ち着いてきた頃ではないでしょうか。

年度替わりに気分を一新して、何か新しいことにチャレンジしてみるのもいいかもしれません。

図書館で、趣味や教養、自己啓発など、チャレンジのきっかけになるような本を探してみませんか。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆ 『もりもりさまの森』原画展を開催しています！

○中央図書館の絵画ラックでは 4 月 27 日（木）まで、童話『もりもりさまの森』（理論社 2016）に描かれている挿絵の原画を展示しています。『もりもりさまの森』は、田島征三さんが二十年の歳月をかけて書き上げた初めての童話作品です。

挿絵は、さとうなおゆきさん。さとうさんの描く繊細で美しいタッチの原画をぜひ間近でご鑑賞ください。

○原画展の開催にあたり和洋女子大学学生の方に掲示用ポスターと配布用チラシの制作にご協力いただきました。

今回、この作品も掲示しておりますので、学生の皆さんの個性溢れる作品も併せてお楽しみください。

○また、中央図書館入口横のガラスケースでは、田島征三さんの木の实を使った立体作品を展示しています。

作品は『森の小人たち』と『森の中で静かにパーティ』。どちらも、『もりもりさまの森』原画展に合わせて田島さんが作ってくれた作品です。ぜひご覧ください。

◆ 「はるかぜえほんの会」を開催します！

○開催日時 平成 29 年 4 月 23 日（日）午後 2 時～2 時 30 分

○場所 中央図書館内こどもとしょかん くつろぎ広場

○対象 3才～小学生

○申込み 事前申込みなし。自由参加（当日5分前にこどもとしょかん集合）

○子ども読書の日（4月23日）にちなみ、いつものえほんの会を拡大した形の「はるかぜえほんの会」を開催いたします。暖かい春の日差しの中、ご家族一緒にのんびりと絵本を楽しんでみませんか。

◆「図書館だより No.97」を発行しました。

○2月に実施した図書館利用者アンケートの実施報告を掲載しています。
○図書館だよりは館内で配布しているほか、図書館ホームページからもご覧になれます。

「図書館だより No.97」を詳しく読みたい方はこちら

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/db/1008.html>

■ ■ テーマ展示 □ -----

◆「おとなも楽しめる児童書」（中央図書館／4～5月）

小さい頃に読んでもらった絵本、小学生の時に夢中になって繰り返し読んだ思い出の童話・・・誰にでも心の奥に忘れられない思い出の一冊があるのではないのでしょうか。

今回の特集では、そんな懐かしいロングセラーの児童書や、大人になった今だからこそ楽しめる絵本を集めました。

ぜひ本を手にとって、絵本や童話ののびやかな世界をお楽しみください。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1215.html>

○展示の本からいくつかをご紹介します。

◇『パリのおばあさんの物語』スージー・モルゲンステルヌ／著，セルジュ・ブロック／著，岸恵子／訳（千倉書房 2008）

パリに一人きりで暮らすおばあさんの日常と、過ぎ去った日々の思い出が交錯する物語。孤独や老いを感じる現在の暮らしや、悲惨な経験をして心に深い傷を負った過去が、不満や恨みではなく、前向きな言葉で茶目っ気たっぷりに語られていきます。

「もういちど、わかくなってみたいとおもいませんか？」最後の問いに、やさしく、しかし決然と「いいえ」と答えるおばあさん。この絵本から、老いること、そして、歩んできた道のりのすべてを、私の人生と素直に受け入れる姿に、おばあさんが育んできた心のやわらかさが伝わってき

ます。

◇『ペツェッティーノ』レオ・レオニ／作，谷川俊太郎／訳（好学社 1978）

自分は誰かのとるに足りない部分品だと思っているペツェッティーノ。彼は、一体誰の部分品なのか確かめようとします。「はしるやつ」「つよいやつ」「およげるやつ」次々と出会う友達に、「自分はある部分品ですか。」と尋ねていきますが、皆に違うといわれてしまいます。それでも、自分を誰かの部分品だと信じる彼は、船出をし、生きているものが何もない「こなごなじま」にたどり着きます。そこで、彼が見つけた答えとは・・・。

人は決して誰かの部分品ではない、誰もがかけがえのない存在なのだと思い出させてくれる絵本です。

◇『100万分の1回のねこ』江國香織ほか／著（講談社 2015）

谷川俊太郎、江國香織、川上弘美ら 13 人の作家が、佐野洋子の絵本『100万回生きたねこ』に寄せたトリビュート短編集です。

短編は、それぞれ絵本のテーマである「愛」や「生と死」の観点で書かれているものの、その世界観の違いに作家各々の絵本の捉え方の個性を感じさせられます。

各短編の前には『100万回生きたねこ』や佐野洋子さんへのメッセージが添えられています。

.....

◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346
